

企画展示 「考古学を築き支えた調査研究書

—日本考古学協会寄贈図書61,799冊から—

奈良大学図書館

奈良大学図書館は、2019年2月7日(木)から4月12日(金)の会期で、「考古学を築き支えた調査研究書—日本考古学協会寄贈図書61,799冊から—」と題した企画展示を開催する。

奈良大学が2014年に日本考古学協会から図書寄贈を受けたことはすでに周知の事実であって、2016年7月「みささぎ」23号誌上にて坂井秀弥教授にも詳しく解説いただいたとおりであるが、受贈事業の完成による良い影響（「みささぎ」27号参照）があった2018年度の締めくくりとして、これら日本考古学協会寄贈資料（以下、協会図書）の中から選抜した資料群を企画展示の題材とすることで本事業の掉尾を飾り、新しい時代へ向かうこととしたい。

協会図書の登録件数は61,799冊、内訳は図書44,312冊（うち埋蔵文化財発掘調査報告書36,459冊）、雑誌17,487冊である。今回の展示では、これら協会図書の中から、文化財学科の豊島直博教授、坂井秀弥教授により、日本の考古学研究でも重要な位置づけの資料17種が選出されて、壁面パネルや発掘当時の新聞記事も併せて展開した。代表的なものを紹介しよう。

「群馬県岩宿発見の石器文化」（1956年）は、日本にも旧石器時代が存在することを実証した岩宿遺跡の発掘調査報告書である。岩宿遺跡は中学校、高等学校の教科書でも古代史の記述に高頻度で登場しており、同じくたびたび登場する「沖ノ島」とともに、検定教科書での扱いを示すパネルを展示した。

「沖ノ島 宗像神社沖津宮祭祀遺跡」（1958、1961年）は背革装の表紙に金文字をあしらった美しい造本で、多数の記録写真を収めているが、裏写りを嫌気してか写真を片ページずつ印刷しているため分厚い作りの報告書である。1951年に文化財保護委員会（現在の文化庁）と愛知県教育委員会が共同で発掘した国営発掘第1号の「吉胡貝塚」もある。

「綾羅木郷遺跡発掘調査報告書」（1981年）は、1965年から発掘調査が行われた山口県綾羅木郷遺跡の報告書で、ベトナム戦争で輸入が減少して国内産の需要が高まった珪砂（ガラス原料）の採掘強行にともない遺跡破壊が発生したため、国の史跡に緊急指定された経緯をもつ。

ほかにも、協会図書には各地で発行される考古学研究の雑誌も数多く含まれており、奈良大学図書館ではこれらもあえて学内者への貸出可能な「図書」として登録した。図書館では通常、「雑誌」は通常の本とは扱いが異なり、奈良大学図書館では貸出もほとんど行っていないが、受贈にあたり、会員をはじめ広く世人の利用に供したいとの日本考古学協会の意向もあって、今次寄贈の雑誌に限り「図書」扱いとしている。展示では雑誌「民芸手帖」「多摩考古」「伊那」など6タイトルを紹介した。

協会図書はそのほとんどが開架にあり、入館後は自由に閲覧できる（管理上の都合で閉架にあるものもカウンターで請求可能）。展示中はケース内にあって観覧に供された資料も展示終了後は利用可能な一資料に戻る。ぜひご覧いただきたい。

なお、協会図書の受贈事業に関しては国立国会図書館発行の季刊誌「カレントアウェアネス」（<http://current.ndl.go.jp/>）Vol.339にも掲載される。

奈良大学図書館は今後も、学修・研究に必要な資料や貴重資料の収集、整理・保存、開示につとめ、温故知新の先端に位置する図書館でありたいと考えている。引き続きご利用いただければ幸いです。



ジュンク堂奈良店で奈良大学学生選書フェアを開催

2017年5月に開始した奈良大学図書館の学生選書。その後回数を重ねて2018年11月には4回目を実施し、選ばれた図書は利用率も高く人気のコーナーになっています。

参加条件として毎回、参加者に書いてもらっている図書紹介のPOPは、1年後に役目を終えたあとは館内で保管しています。

今回、開催会場のジュンク堂奈良店様よりPOP一時貸与のご依頼があり、図書紹介のPOPとじっさいの選書本で、「奈良大学学生選書フェア」を開催することに。

10月1日から31日まで、書店レジ付近の棚に店員さんの手で特設のコーナーが作られ、来店者の注目を集めていました。

今後も実施される予定です。お楽しみに！



図書館企画展「紙を愛した男・関義城」

7月4日(水)～9月27日(木)の日程で、文化財学科魚島純一教授による図書館企画展「紙を愛した男・関義城」を開催しました。

平成29年度特別集書の「The Handmade Papers of Japan (『日本の手漉紙』)」(1952)は、20世紀日本の製紙業発展に尽力した関義城がトーマス・キース・ティンダルとともに編纂に携わった、4編+繊維標本からなる250部限定制作の貴重書です。

終戦直後に来日して連合軍司令部で勤務していたティンダルが和紙の美しさに魅せられて編纂をはじめ、その帰国後に関義城が引き継いで完成させたものです。彼自身のコレクションからも多くの資料を提供しており、様々な種類の和紙見本や古今の資料の実物を貼り込んであります。制作されたものの多くは国外の大学などに入ったため、日本国内には30部ほどしか残らなかったと言われ、そのうちの1部がいま奈良大学にあります。

本展示では、上記資料に加えて、関義城が引き続き制作した「古今和紙譜」「古今東亜紙譜」「古今色紙之譜」、禿氏祐祥編「古紙残葉」など、奈良大学所蔵の貼り込み帖を展開しました。

会期中には、国外からの団体見学者が2度にわたり見学されたり、関義城の子孫の方も観覧されるなど、予想外の広がりもみせた企画展示となりました。



奈良大学図書館 in 横浜(10/30~11/1)



ポスターは図書館カウンター付近でも展示しました

毎年秋頃に、日本の図書館界全体の交流・情報交換の場である「図書館総合展」が開催されています。

みささぎ前号で報告しました大学ランキング2019大学図書館部門での1位ランクインを契機に、奈良大学図書館も図書館総合展の「ポスターセッション」にポスターを出展しました。

東日本のイベントで奈良大学をPRする良い機会でしたので、大学と図書館の概要、日本考古学協会図書受贈事業について、所蔵資料の特徴、近年の取り組み、奈良大学所属者の声などから成る8枚のパネルをあずけ、自館作成のカード100枚も頒布してPRしました。

3日間で数百人の観覧があり、他大学の考古学専攻学生、中学校・高等学校の図書館司書、奈良大学卒業生や、図書館関連企業、出版社など多くの方の問い合わせをいただきました。

図書館、取材される

2018年は、奈良大学図書館が『大学ランキング2019』の大学図書館部門で1位にランクインしたことも影響して、外部からの取材が多かった年でもあります。(括弧内が掲載・放映日)

5月・・・関西テレビ取材(5日取材、未放映)

朝日新聞出版(21日取材)『大学ランキング』の発行元。→AERAdot.(アエラドット)に記事掲載(<https://dot.asahi.com/dot/2018072500082.html>)

6月・・・毎日新聞(8日)、奈良新聞(27日)

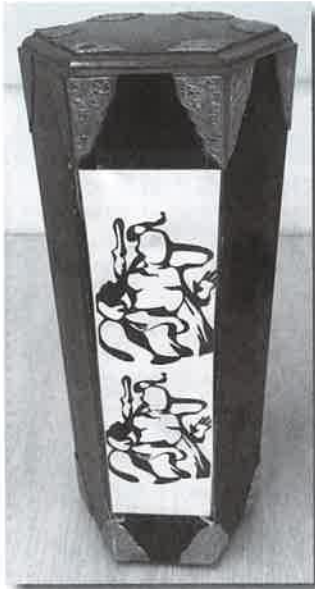
ジャパンナレッジ(29日取材)→『図書館員が気になる図書館』に記事掲載(<https://japanknowledge.com/articles/libguide/021.html>)

9月・・・毎日新聞(6日)

10月・・・奈良テレビ(2日)、コミュニティ高の原(25日)

このうち企画展示2件、北村氏写真コレクション(国文学科で調査、図書館に一部所蔵)が1件で、そのほかは図書館じたいが取り上げられました。





ミニイベント「司書に訊いてみくじ」開催!

11月3日のオープンキャンパスに呼応して、図書館では初の試みとして、来場者のかた限定で「司書に訊いてみくじ」を実施しました。

漆黒のおみくじ箱（本物）を振って^{さいちく}筮竹を司書に渡せば、問題&ヒントの書かれたおみくじが授与されます。解答がわかれば館内を巡って本をカウンターへ。さらにヒントが欲しい場合は司書に訊いてみよう!というイベントで、当日は34名がチャレンジされていました。

今後も実施するかもしれませんので、楽しみに!

企画展示「学祖 藪内敬治郎先生」

平成30年10月5日～29日（11月3日オープンキャンパス時まで）の日程で、企画展示「学祖 藪内敬治郎先生」（監修：森川正則准教授、展示担当：大久保瑞彦）を開催しました。

奈良大学の源流は、1925年4月に藪内敬治郎先生によって設立された奈良県初の夜間中学である南都正強中学に遡ることができます。この展示では、内外の関係者や奈良大学附属高等学校、法相宗大本山薬師寺、県立図書館の御協力もいただき、藪内先生の足跡に関連する資料を揃え、紹介しました。

資料の収集、図録の作成などは、本学史学科森川正則准教授の監修を受けながら、大学院文学研究科文化財史料学専攻博士前期課程の大久保瑞彦氏が担当しました。大学院生が主担当となる企画展示は初の試みです。

藪内敬治郎先生によって1969年4月に創立された奈良大学は、2019年に創立50周年を迎えます。



南都正強中学西ノ京時代の校舎（薬師寺世尊院 / 非公開）で使われた鬼瓦。創設初期のものと推定。奈良大学附属高等学校蔵。

後記

図書館報『みささぎ』28号をお届けします。

企画展示にご尽力いただいた文化財学科魚島純一教授、豊島直博教授、坂井秀弥教授、史学科森川正則准教授、大学院大久保瑞彦氏に厚く御礼申し上げます。

次号は2019年夏期に発行予定です。これからも、図書館活動を中心に発信を続けていきますので、よろしくお祈りします。

(編集担当)

発行：平成31年3月7日

編集：奈良大学図書館 奈良市山陵町1500